



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2025年度 目標発表 (部門)



N O	種類	発表部署名	ページ
1	センター	がん診療センター (化学療法、相談、ゲノム含む)	1
2		遺伝相談室	3
3		女性骨盤機能センター	5
4		認知症疾患医療センター	7
5		健診センター	9
6		栄養管理センター	11
7	院長直下	医療安全推進室	13
8		感染対策室	15
9		教育研修センター	17
10		QMセンター	19
11	看護部	看護部	21
12	薬剤部	薬剤室	23
13		臨床研究管理室	25

N O	種類	発表部署名	ページ
14	医療技術部	放射線診断技術科	27
15		放射線治療技術科	29
16		臨床検査技術科	31
17		リハビリテーション技術科	33
18		臨床工学科	35
19		栄養管理室	37
20		臨床支援技術科	39
21	地域医療支援センター	地域医療連携室	46
22		入退院管理室	48
23		医療・福祉相談室	50
24	事務部	病院総務課	52
25		医事課	54
26		経営企画課	56

2025年度目標 がん診療センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
がん遺伝子パネル検査	129件	約110件	100件	成果時に 評価
がん遺伝カウンセリング	20件	3件	20件	成果時に 評価
遺伝カウンセラー擁立準備	0	0	来年度の 養成コース 入学者1名 確保	成果時に 評価

他、

- ①放射線治療件数の維持、緩和放射線治療の積極的導入
- ②化学療法初回導入時、アナフィラキシー高リスクレジメの原則入院加療



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	ロボット支援下手術等低侵襲治療の提供 新規抗癌剤(分子標的剤含む)	成果時に 評価
2. 働き活きと働ける職場環境	午前早期から化学療法開始できる体制構築 →時間外労働削減	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	一般市民への情報発信 アクセスしやすいHomepage校正 常勤遺伝カウンセラーの確保	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	化学療法導入時の原則入院加療	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ・保険承認ロボット支援下手術の積極的導入
→呼吸器外科、産婦人科、消化器外科は網羅
- ・大塚副病院長赴任により、
ロボット支援下腎臓手術が保険診療に
- ・中止しているロボット支援下腓体尾部切除は条件
を満たせば再開可能



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ・外来化学療法に関わる職員の時間外労働削減には
8:30から化学療法開始できる体制構築が必須！

化学療法ベッド枠も増やせます

①化学療法患者の優先採血

電子カルテ更新に伴い、採血時間枠設定を可能にしたい

②可能であれば前日採血も採用

→8:30診察、副作用checkで即化学療法start可能

そのため、診察や採血・画像検査の通知機能を活用した患者への周知徹底は必須
また、“診療費は原則credit cardによる後払い”を推奨
(17:00ギリギリまで化学療法施行可能になります)



今年度の新たな取り組み

- ・遺伝子パネル検査のExpert panel EP)→院内開催可能症例は院内で！
現在、電子承認systemで簡便・確実に施行可能
院内実施件数増で収益向上に！

・血液悪性疾患への遺伝子パネル検査導入 いまだ未知の領域です。
白血病等で入院中のパネル検査は保険算定どうするの？
このことについて厚労省の見解が得られない

- ・アナフィラキシー対応：1月から当番制を採用、対応が迅速になりました。
フローチャートが有効活用されています。随時改定していきます。



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ・常勤遺伝カウンセラーの確保

遺伝カウンセラー自体、希少種

→応募による採用が難しいため当院で育成する
必要がある

静岡社会健康医学大学院大学遺伝カウンセラー養成コース2年間で資格取得可能だが、職員が通学するには諸課題あり



決意表明

- ・最先端の悪性腫瘍治療を
中東遠医療圏域住民へいち早く周知し、
いち早く導入しよう
そして、安全に提供しよう

- ・職員にも優しいがん治療(体制)を



2025年度目標 遺伝相談室

2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	遺伝子診断が必要な症例に関して、丁寧な診察と遺伝カウンセリングを行い、診断に結びつける	成果時に評価
2. 生き活きと働ける職場環境	遺伝専門医としての診療を維持できるよう、小児科一般業務やその他業務との調整を行う	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	非侵襲的出生前遺伝学的検査(NIPT)への対応を行う	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	遺伝専門医の維持による認定施設の維持	成果時に評価

2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
保険適応のある遺伝子検査提出件数	3	0	必要数	成果時に評価
保険適応外の遺伝子検査件数	4	0	必要数	成果時に評価
診断率(%)	40	—	—	成果時に評価

2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ・ 遺伝性疾患についてのコンサルトを受ける
- ・ 必要時にNIPTにおけるコンサルトの対応を行う
- ・ がんゲノム診療における院内エキスパートパネル対応

今年度の新たな取り組み

当院で診療し診断につながった症例を、
可能であれば英語で症例報告として論文
発表したい



決意表明

●NIPTを実施する医療機関(連携施設)

●がんゲノム医療連携病院

上記の施設条件維持には常勤の臨床遺伝専門医
が必要

今後も臨床遺伝専門医としての診療を続けながら、
施設に貢献をしていきたい



2025年度目標 女性骨盤機能センター



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	女性泌尿器科診療の新規開設	成果時に評価
2. 生き活きと働ける職場環境	女性泌尿器科の魅力を発信、排泄ケアなどの院内教育	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	地域住民への情報発信、周辺医療機関との連携強化	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	新規対象患者の獲得	成果時に評価



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
外来紹介患者数(人/年)	-	-	50	成果時に評価
新規入院患者数(人/年)	-	-	10	成果時に評価
年間手術件数	-	-	10	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

①女性泌尿器科に関する啓蒙と教育

- ・地域医療住民への啓蒙活動
- ・院内医療従事者に対する教育

②女性泌尿器科関連手術の新規導入

- ・膀胱水圧拡張術(2025年4月 施設基準取得済)
- ・ボツリヌストキシン膀胱壁内注入
- ・尿失禁防止手術(TVT)



今年度の新たな取り組み

①女性泌尿器科関連手術の新規導入

- ・尿失禁防止手術(TVT)
- ・ボツリヌストキシン膀胱壁内注入
- ・膀胱水圧拡張術(2025年4月 施設基準取得済)

②排泄自立支援加算・外来排尿自立指導料の確保

- ・女性のみならず、「男性」も対象
- ・「排尿ケアチーム」の立ち上げ
- ・院内研修の実施



決意表明

女性泌尿器科領域の拡充を目指し、
地域医療に必要とされる診療を実践
していく。

排尿ケアチームを通して、入院から外来
まで「排尿自立」をサポートする。



2025年度目標 認知症疾患医療センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
認知症鑑別件数	42	65	70	成果時に 評価
専門医療相談件数	243	376	380	成果時に 評価
認知症専門診断管理料1	12	25	28	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	・開業医との連携を図り、鑑別診断後の治療の継続を図る。 ・認知症の進行予防薬の導入を図り、治療選択の幅を広げる。	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	・紹介患者数が増加しても鑑別診断希望者の受診までの待機期間の現状維持を目指す。 ・地域の医療機関や支援機関からの相談対応を行う。 ・地域からの講師依頼等に柔軟に対応し認知症に関わる情報や知識の提供を行い、地域の認知症体制作りに貢献をする。	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	・逆紹介患者に対する認知症専門診断管理料1(700点)の確実な算定を目指す。	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

1. 質の高い医療の実現

- ・開業医との連携を図り、鑑別診断後の治療の継続を図る。
逆紹介時に認知症療養計画書を添付し、医療面と生活面と合わせた継続治療を行う。
- ・認知症の進行予防薬の導入を図り、治療選択の幅を広げる。
新薬の導入を図り、対象者に合わせた治療の選択肢について説明し、希望に沿った対応を行う。

3. 地域ニーズへの対応現状維持を目指す。

- ・紹介患者数が増加しても鑑別診断希望者の受診までの待機期間が長くないよう配慮する。
紹介枠が4枠/週あるが、必要に応じて柔軟に対応する。



2025年度の重点目標達成に向けた施策

3. 地域ニーズへの対応

- ・地域の医療機関や支援機関からの相談対応を行う。
鑑別診断の受診につなげたい方の相談等様々な相談に対応する。
- ・地域からの講師依頼等に柔軟に対応し認知症に関わる情報や知識の提供を行い、地域の認知症体制作りに貢献をする。
センターの事務局に窓口を一本化し、スムーズな対応を行う。

4. 経営基盤の更なる強化

- ・逆紹介患者に対する認知症専門診断管理料1(700点)の確実な算定を目指す。
医師、認知症看護認定看護師、相談員と共同して作成し、終診時に確実に交付出来る様早めに準備をし、交付する。



今年度の新たな取り組み

9月の認知症月間に合わせ、認知症に関する啓発活動を行い、早期発見早期予防に寄与する活動を行う。



決意表明

『認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って生活出来るようできる限り住み慣れた地域で相互に支え合いながら共生する社会を目指す』

<認知症基本法>

院内・院外問わず認知症施策の関係機関と引き続き情報交換を行い、認知症の発症予防や初期対応に努め、地域生活の維持に必要な医療を提供していくとともに、診療報酬に繋げていけるよう努力していきます。



2025年度目標 健診センター



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
ドック請求額	1億6631万円	1億6983万円	1億7000万円	成果時に 評価
企業健診請求額	1億4092万円	1億3921万円	1億4000万円	成果時に 評価
特定保健指導請求額	572万円	294万円	350万円	成果時に 評価

健診センター所属医師の減少により、健診可能枠の確保が課題
関連診療科医師の支援により、体制の維持を図っていく



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	健診施設機能評価の受審	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける職場環境	時間外勤務の平準化と36協定の遵守	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	生活習慣の改善をサポートするスマホアプリの導入	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	健診実施可能枠の確保と稼働率向上、料金改定	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ① 健診施設機能評価の受審
質の高い医療の実現への新たな取り組み → 詳細は後述
第3者評価により優れている点や問題点を明らかにして改善活動を推進する
- ② 時間外勤務の平準化と36協定の遵守
風通しが良く、気軽に相談できる職場環境の整備
バランスアップチャレンジキャンペーンを意識した取り組み
- ③ 生活習慣の改善をサポートするスマホアプリ導入
昨年参画した磐田市の実証実験の結果を踏まえたスマホアプリの選定
検体検査支援契約を活用した導入経費抑制策の立案



2025年度の重点目標達成に向けた施策

④ 健診実施可能枠の確保と稼働率向上、料金改定

- 1) 健診に伴う診察・判定等、医師業務の支援体制の整備
- 2) 需要が多い胃カメラ増枠への調整
- 3) 閑散期への受診誘導
- 4) 検査料算定方法の見直し、新規手数料の設定
- 5) 特定保健指導の増加対策
 - ・対象者への声かけを拡大
 - ・指導内容の質の向上



今年度の新たな取り組み

健診施設機能評価の受審について

令和8年度からの協会けんぽ保険事業への対応、人間ドック受入の為に、協会けんぽが指定する団体からの認定が必要

【メリット】

- ・ 質の高い健診を提供するために効果的な改善活動が推進できる
- ・ 厳しい審査項目をクリアした優良な施設として認定される
- ・ 受診者から選ばれるようになり、安定した運営が可能となる
- ・ スタッフのモチベーション向上に寄与

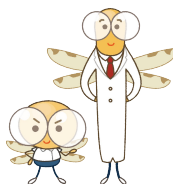
【課題】

- ・ 予算確保（受審・登録費用、年会費）
- ・ 問診や保健指導の際のプライバシー確保（個室設置など施設改修）



決意表明

- ・ サービスの質の向上に努めます



- ・ 精度の高い健康診断を目指します

- ・ 継続かつ安定的な受診者の確保に努めます



2025年度目標 栄養管理センター



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	患者の栄養状態および機能改善、QOL向上を目指し適切な栄養療法、リハビリテーションを提供していく	成果時に評価
2. 活き活きと働ける職場環境	風通しの良い、円滑なチーム運営	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	近隣病院へNST臨床実地修練の場を提供	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	各種栄養関連加算(特食加算、栄養サポートチーム加算等)の増加	成果時に評価



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
栄養サポートチームラウンド件数(件)	624	676	680	成果時に評価
摂食嚥下チームラウンド件数(件)	121	105	120	成果時に評価
NST臨床実地修練者数(人)	9 (外部4人含む)	11 (外部4人含む)	10~12 (外部4人程度)	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

(入院部門)

NST摂食嚥下チームの充実
GLIM基準に早期介入の強化

(外来部門)

- ・周術期栄養管理加算の充実
- ・外来化学療法中への栄養介入
- ・生活習慣病、サルコペニアへの栄養管理の啓蒙



今年度の新たな取り組み

- ・経腸栄養剤の見直し
- ・新規の単独病棟でのNSTの強化
(整形病棟での成功例を踏まえて)



決意表明

当院の入院・外来の栄養管理を
NST摂食嚥下チーム・栄養管理室
とともに行っていきます。



2025年度目標 医療安全推進室



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
医師からのヒヤリハット、 オカレンスレポート数	100件	200件 (研修医10件/人)	200件 (研修医2件/人)	成果時 に評価
医師/看護師 率	3.9%	10%	7%	成果時 に評価

* 第3次中期経営計画では年間3000件の報告数、医師からの報告数120件

2024年度:3373件、医師の報告数126件(副報告含3623件、129件)

医師/全体では3.7%(36%)、医師/看護師4.8%、研修医13件(内歯科6件)



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	事例に対して改善策をたて医療の質向上に寄与する 医師の医療安全活動を促進	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける 職場環境	心理的安全性の向上	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの 対応	地域連携医療安全相互チェックの継続: 近隣病院との安全度のベンチマーク策定継続	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	加算が得られる医療安全対策の強化:リスクレベル「中」以上の 患者の血栓塞栓症予防対策の実施の向上(特に内科系)	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

●医師の医療安全活動を促進

- ・医師に関連する他部門からの報告を医師からもあげてもらう
- ・QMセンターとも協力し医局会でも情報共有に努める

●医療の質向上

- ・医療保険委員会と協力し血栓塞栓症予防対策を増加させる
- ・QMセンターとも協力しQI情報の共有・可視化を推進する

●心理的安全性の向上

- ・医療安全教育研修(7/23・29、バリテス)で取り上げる
- ・医療安全面談で出た課題に対応していく



今年度の新たな取り組み

●医療安全/QMセンターとして医局会での周知

- ・医療安全管理委員会報告の分析事例、
警鐘事例とその対策案を共有する。



決意表明

●信頼される医療安全推進室を目指します。

●見える化をした活動を重視します。

●心理的安全性の確保に努めます。

(●機械認証、AI技術を導入し人への負担を減らします。)



2025年度目標 感染対策室



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
血液体液曝露件数	36件	31件	29件以下	成果時に 評価
黄色ブドウ球菌の メチシリン耐性率	29%	25%	23%以下	成果時に 評価
全職員対象研修受講率	95.8%	98.4%	95%以上	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 職業感染曝露 対応	・発生事例をもとにした対策の実施 ・各部門との発生件数減少に向けた取り組みの実施	成果時に 評価
2. 薬剤耐性菌対応	・ラウンドによる感染対策実施状況の確認とフィードバック ・手指消毒剤使用状況の確認とフィードバック ・発生時の介入	成果時に 評価
3. 感染防止対策 向上加算取得	・中東遠感染対策ネットワークの活用 ・加算2、3施設への対策援助	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

職業感染曝露対応

過去3年分の発生状況を分析し改善策を検討する

発生部署と連携し改善策を検討する
医局・看護部・手術室・教育研修室など

各種研修会の実施
新規採用者研修・初期研修医研修・全職員対象感染研修

院内発生事例と対策の周知
院内感染防止委員会・ICT連絡会・看護部感染予防委員会・ICTニュース



2025年度の重点目標達成に向けた施策

薬剤耐性菌感染対策

ラウンドによる標準予防策・接触感染予防策実施状況の確認とフィードバック

病棟平均の1患者1日当りの手指衛生実施率10%以上を目指す

抗菌薬適正使用の推進

発生時には他部門・西部保健所・県内病院とも連携し対応を検討

FICT・中東遠院内感染対策カンファレンス・認定看護師連絡会の活用



2025年度の重点目標達成に向けた施策

感染防止対策向上加算取得

中東遠感染対策ネットワークカンファレンス実施と連携施設との情報共有と相談対応

加算1施設と連携し中東遠地域の感染対策改善を行う

加算2.3施設への指導強化加算による対策改善の援助

全職員対象感染研修会の開催

サーベイランス（CLABSI、CAUTI、SSI、VAE）の実施と関係部署と協力し感染率低下に向けた取り組みを行う



今年度の新たな取り組み

新興感染症を想定した訓練実施への取り組み

次年度訓練実施を行う為の準備

関係各部門との連携・相談

保健所・公共機関との連携・相談

当院における新興感染症対応の手順作成



決意表明

院内感染を防ぐために
院内の各部署、他施設、保健所と
連携協力し最善を尽くします



2025年度目標 教育研修センター



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	臨床研修指導医の育成拡大 50名→52名	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	初期臨床研修医マッチング応募者数40件	成果時に評価



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
臨床研修指導医の育成拡大	48名	50名	52名	成果時に評価
マッチング応募者数拡大	42名	34名	40名	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

施策: 若手医師(研修医)の安定的確保

方法: 合同説明会参加 6月、7月、3月
 病院説明会開催 5月、12月
 WEB説明会開催 6月
 その他

目標: マッチング応募者数 34名 → 40名 20%UP



2025年度の重点目標達成に向けた施策

施 策: 研修医指導者の安定的確保

方 法: 開催状況の随時把握
受講対象者の把握及びアナウンス

目 標: 指導医講習会受講済者 50名 → 52名



今年度の新たな取り組み

「臨床研修紹介パンフレットの一部をQRコードでデータダウンロード」

効果: ペーパーレス化、配付作業の削減



決意表明

- ・活力ある病院運営を維持するため、若手医師(初期臨床研修医)を安定的に確保します。
- ・指導医講習会受講者を増加させ、臨床研修病院の質向上をさらに図ります。



2025年度目標 QMセンター

2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
TQMの認知度 (概算(推定)割合%)	5～10	30～50	50～80	成果時に 評価

2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	QI (Quality Indicator) 情報を共有し、病院全体の医療 の質の向上に貢献する。	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける 職場環境	職員の資格取得状況を把握し、「人財」育成促進に寄 与する。	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの 対応	患者サービス向上・改善に関して病院全体の改善活 動を組織横断的に把握し協力していく。	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	選ばれる病院になるべく、医療の質・安全文化の風土 作りの一翼を担えるような部門を目指します。	成果時に 評価

2025年度の重点目標達成に向けた施策

●QMセンターとしての院内改善活動の把握・提言

- ・医療安全推進室との連携
- ・業務改善委員会・5S委員会との連携

●当院としてのQMセンターのあり方を模索継続

- ・TQM推進委員会での検討継続
- ・横展開できる改善案のサポート

今年度の新たな取り組み

●QMセンター/医療安全として医局会での周知

- ・医療安全管理委員会報告の分析事例、
警鐘事例とその対策案を共有する。



決意表明

「TQM: Total Quality Management」

（全員・全体で、医療・サービスの質を、継続的に改善・向上させていく）

という言葉や概念が職員に認知され、風土となるように

現場・委員会・医療安全活動などで発信していきます。

（バックボーンの明確化、横糸を通していくようなイメージです。）



2025年度目標 看護部



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
適性な病床管理 病床稼働率	73.6%	75.6%	80%	成果時に 評価
退院後訪問指導料算定件数	3件	19件	25件	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	安全で質の高い看護の提供 ・地域住民のニーズに応じた看護の提供 ・チーム医療の推進 ・専門性の高い看護師の育成と活躍	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける 職場環境	働きがいのある、働き続けられる職場づくり ・看護の提供体制の改善 ・業務改善による負担軽減 ・医療DX推進	成果時に 評価
3. 住民の安心した暮らしを支える活動	人材育成と活用 ・将来を担う人材の育成	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	病院経営への参画 ・適性な病床運営 ・短期滞在手術件数増加に向けてのシステム作り	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

1. 安全で質の高い看護の提供

- ・地域住民のニーズに応じた看護の提供：
病棟看護師による退院後訪問を進める。
疾病予防啓発、重症化予防にむけての活動を行う。
- ・チーム医療の推進：
今年度、新たに「女性骨盤機能センター」「栄養管理センター」「短期滞在手術推進チーム」等が立ち上がることに伴い、円滑な運営ができるように協力する。
- ・専門性の高い看護師の育成と活躍：
専門・認定看護師、特定行為看護師の育成と活躍の場の拡大を図る。



2025年度の重点目標達成に向けた施策

2.働きがいのある、働き続けられる職場づくり

- ・看護の提供体制の改善:
業務内容を見直し、無駄を省いた看護の提供体制の改善を図る。
- ・医療DXの推進:
適性な勤務管理と新電子カルテの更新にむけての準備を行う。
- ・心理的安全性の高い職場環境:
育休復帰者の職場環境の整備に取り組む。



2025年度の重点目標達成に向けた施策

3:地域ニーズへの対応

- ・将来を担う人材の育成:
特定行為区分の「栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連」の開講と研修修了者の活用を検討する。

4:経営基盤の更なる強化

- ・適性な病床運営:
DPC期間Ⅱ以内での退院を意識し、病床稼働率80%を目指す。(DPC期間Ⅲ以上の患者への退院支援の見直しを行う)
- ・短期滞在手術件数増加に向けてのシステム作り:
短期滞在手術推進チームを中心にシステムを構築する。



今年度の新たな取り組み

- ・看護外来の開設に向けて取り組む。
- ・新たな医療チームの発足に伴い
チーム内での看護師の専門性を発揮する。



決意表明

地域住民の声に耳を傾け、
患者の想いに寄り添った
ニーズに応える看護を提供する。

また看護職員のために
働き続けられる職場作りに取り組む。



2025年度目標 薬剤部 薬剤室



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
薬剤管理指導実施率(%)	90.2	89.8	90	成果時 に評価
退院時指導実施率(%)	64.0	62.8	65	成果時 に評価
総合評価調整加算(件数/年)	75	190	300	成果時 に評価
退院時薬剤連携加算(件数/年)	73	67	75	成果時 に評価
連携充実加算(件数/年)	100	110	120	成果時 に評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い 医療の実現	服薬指導における質と安全性の向上 がん薬物療法体制加算の継続取得	成果時 に評価
2. 経営基盤の 更なる強化		
3. 地域ニーズ への対応	薬薬連携の強化	成果時 に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

＜服薬指導における質と安全性の向上＞

- 人員配置を工夫し、服薬指導機会を増やす(複数回実施)
算定機会率 月平均70%以上
- 特に安全管理が必要な医薬品が投与されている患者さんへの指導を確実に実施する
ハイリスク薬指導率 月平均60%以上

＜がん薬物療法体制充実加算の取得＞

- 薬剤師外来を継続して実施する
がん薬物療法体制充実加算 年20件



2025年度の重点目標達成に向けた施策

＜薬薬連携の強化＞

- 退院サマリー記載方法などを検討し、退院時連携加算件数を増やす
- 薬薬連携勉強会を実施する 年2回以上
- 近隣薬局との連絡会を開催する
- 電子処方箋開始に伴う確認事項などの準備



今年度の新たな取り組み

昨年度作成した薬剤師臨床研修ガイドラインに沿った教育研修プログラムの運用開始

関連する会議の開催
プログラムに沿った評価の実施など



決意表明

業務の効率化を図り、対人業務時間を創出する。
薬剤師業務の質を向上させ、患者からもスタッフからも信頼される魅力あふれる薬剤部を目指す！



2025年度目標 薬剤部 臨床研究管理室



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
新規治験契約件数	2件	3件	3件	成果時に 評価
新規特定臨床研究契約件数	3件	3件	3件	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	質の高い医療や新しい医療の実現にむけた治験・臨床研究への積極的な参加	成果時に 評価
2. 生き生きと働ける職場環境	希望に添った有給休暇の取得とワークライフバランスの強化	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	遠隔治験等への参加による治療選択肢の増加	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	治験・臨床研究による安定的な収益	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

1. 質の高い医療の実現

昨年度新たに加入したものを含め、3件の治験ネットワークからの選定調査に積極的に対応

2. 生き生きと働ける職場環境

スタッフ共通のPC上カレンダーで業務内容を共有
休暇希望と業務調整を一元的に実施



2025年度の重点目標達成に向けた施策

3. 地域ニーズへの対応

遠隔治験等新たな形の治験への参画と
被験者への質の高いサポート

4. 経営基盤の更なる強化

契約数の維持
安定的な収益



今年度の新たな取り組み

未経験治験への挑戦

- ・医師主導治験
- ・抗がん剤治験
- ・パートナー施設治験
- ・遠隔治験

→ 受託および院内体制整備により
治療の新たな選択肢を増やす！



決意表明

今年度は専従CRCが不在となり手薄となりますが、受託中の治験サポートも継続しつつ、新しい治験に対応できる体制作りを進めます。

また、治験や研究へ参画していただくことで治療の選択肢を増やし、患者さんのメリットや当院の集患に寄与できるよう努めます。



2025年度目標 放射線診断技術科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
外来検査数(件)CT MRI	2033件/月 580件/月	2124件/月 608件/月	2150件/月 615件/月	成果時に 評価
頭部MRI検査数(3T外来) 心臓CT検査数 乳房トモシンセシス	157件/月 49件/月 117件/月	181件/月 48件/月 143件/月	190件/月 50件/月 150件/月	成果時に 評価
タスクシフト/シェア： RI・CT・MRI穿刺・投与数	-	-	100件/月	成果時に 評価



2025年度 重点目標

	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	専門的なスタッフの育成	30% 成果時に評価
2. 地域ニーズへの対応	被ばく低減への取り組み	20% 成果時に評価
3. 経営基盤の更なる強化	画像管理加算3に関連する施設基準の管理 CT、MRI外来検査、各種加算検査数増加への取り組み	30% 成果時に評価
4. 生き活きと働ける職場環境	静脈路確保・造影剤投与への取り組み	20% 成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

1. 質の高い医療の実現

専門的なスタッフの育成

- 1-1. 生涯教育システムの活用と管理(日本放射線技師会)
経験年数にあわせたクリニカルラダーレベルの取得
- 1-2. 世代を考慮した計画的な認定資格取得
核医学専門技師、胃がん検診認定技師の取得
- 1-3. 臨床研究による診断技術の発展・技術向上

2. 地域ニーズへの対応

被ばく低減への取り組み

- 2-1. 医療被ばく低減施設認定取得に向けた取り組み
- 2-2. 医療被ばくの最適化
DRLs2025に基づいた最適化、AI再構成の活用



2025年度の重点目標達成に向けた施策

3. 経営基盤の更なる強化

3-1. 画像管理加算3の継続と施設基準の管理

- ・MRI安全管理、被ばく管理、画像人工知能安全精度管理
- ・夜間、休日の画像診断体制、検査前画像診断管理

3-2. 外来検査数増加（特にCT検査、MRI検査）

- ・AI再構成、AIカメラの活用による検査時間短縮
- ・予約枠の増加

3-3. 3TMRI頭部検査・心臓CT検査・乳房トモシンセシス検査の増加



今年度の新たな取り組み

4. タスクシフト/シェア

静脈路確保・投与の取り組み（RI、CT、MRI）



医師・看護師の業務負担軽減

医療安全・看護部・教育研修室と相談

院内研修過程を作成

目標院内研修修了者：12名

RI検査 骨シンチ以外の検査に対象拡大！

CT・MRI検査 配置の最適化による静脈路確保・投与技術の習得・定着を目指し、月100件以上を目指す！



決意表明

☆専門性を活かし質の高い診断画像を提供

☆被ばく低減による安心安全な医療

☆収益・支出を考慮した運用の最適化

☆タスクシフト/シェアによる医師・看護師の負担軽減



病院貢献、患者満足度向上を目指します



2025年度目標 放射線治療技術科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
新規治療患者数(実人数)	300人	329人	340人	成果時に 評価
強度変調放射線治療(実人数)	135人	162人	160人以上	成果時に 評価
定位放射線治療(実人数)	52人	43人	50人以上	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	安全かつ精度の高い放射線治療の提供	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける 職場環境	定期的な情報共有の場を設け、技術や経験を相互に 高め合う文化を育む	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの 対応	通院負担の軽減や柔軟性のある治療スケジュールの 提供	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	加算要件の確認とIMRT・SRT/SBRT等の適応支援を通 じて、診療報酬の安定確保と医師判断のサポート	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ◆ 安全かつ精度の高い放射線治療の提供
 - 品質管理(QA)の定期実施と記録整備
 - 最新ガイドラインに基づいた手順の見直し
- ◆ 生き活きと働ける職場環境
 - 月例のチームミーティングを通じた情報・課題共有
 - 学会参加・資格取得などキャリア支援の推進



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ◆ 通院負担の軽減と柔軟な治療スケジュール
 - 定位や寡分割など短期照射メニューの推進
 - 個別対応体制(スケジュールの柔軟化)の整備
- ◆ 経営基盤のさらなる強化
 - 医師への放射線治療適応判断支援
 - 加算要件のチェック体制



今年度の新たな取り組み

- ◆ 治療装置の老朽化に伴う継続治療体制の強化
 - バックアップ体制強化の取り組み
 - 症例振分けの再設計
 - プラン互換性検証・再構築訓練の実施
 - 停止時の運用手順書作成
 - 中長期的な装置更新の調査・見積取得
 - 目指す体制
 - 装置停止時も『すべての治療が72時間以内に再開できる体制』
 - 中断リスクをゼロに近づける準備と連携



決意表明

- ◆ 正確な治療計画の実施と心のこもった患者サポートに努めます
- ◆ 厳格な品質管理により最適な線量計算と機器管理を保証します
- ◆ PDCAサイクルを活用し、継続的な改善と自己研鑽を実践します
- ◆ 医療チーム全体で連携を強化し、信頼性の高い治療提供に全力を尽くします



2025年度目標 臨床検査技術科



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
外部精度管理調査(総合評点) (日本臨床検査技師会/静岡県臨床衛生検査 技師会/日本医師会)	98.5点	98.5点	95点以上	成果時に 評価
認定資格取得・指定研修修了 (のべ人数)	18名	18名	10名以上	成果時に 評価
地域医療従事者の受け入れ	13名	11名	15名	成果時に 評価
受託検査件数(開業医)	106件	178件	200件以上	成果時に 評価
採血待ち時間20分以内の比率	85.4%	93.5%	90%以上	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	質の高い検査の提供	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける 職場環境	キャリアプランへの支援 業務改善とワークライフバランスの推進	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの 対応	地域医療従事者の受け入れ 委託検査の受け入れ センター機能の充実(がんゲノム、血液疾患・輸血)	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	課題解決能力、経営的視点をもった技師の育成	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ① 「品質保証施設認証制度」認定維持(2024.6.1~2026.5.31)
日本臨床衛生検査技師会
10部門:臨床化学、免疫血清、血液、細胞、一般、生理、輸血、病理、遺伝子
更新に向けた準備
- ② ISO 15189 認定維持
2022年版のQMSの安定運用、2026年7月の次回更新審査に向けた準備
- ③ 認定資格取得への支援
部門、業務バランスを考慮した資格取得
- ④ 複数の業務スキルを持つ人材の育成
複数分野の兼務、部門間連携の強化



2025年度の重点目標達成に向けた施策

⑤ 時間外の削減

36協定達成率:100%、業務改善・業務調整により削減できる体制整備

⑥ がん診療センター業務の充実

エキスパートパネル開催支援、契約支援
がんゲノム検査に対応できる技師の育成

⑦ 輸血細胞治療管理業務の充実

輸血・血液に幅広く対応できる技師の育成

⑧ 検査関連収支の共有

収支を考慮した検査提案、情報発信



今年度の新たな取り組み

臨床検査技師による他職種への研修

★初期研修医(1年目)

<採血研修>

2024年度まで 歯科1名受け入れ(4~5月 7:30~8:00 外来採血室)
医科は看護師による研修(4月 7:00~ 病棟)

2025年度 医科・歯科18名受け入れ(4月 8:15~8:50 外来採血室・病棟)
1日6名(外来採血室2名、病棟4名)
5日間(見学1日・実技4日)/人

★救急救命士

2025年度新たに受け入れ開始
検査項目、採血管の種類、分注手順、注意点、検査の流れ等



決意表明

「信頼される検査室」

～院内からも院外からも

目標とされる検査室になる～

“医療の原点は思いやり”の基本理念のもと
仲間を思いやり、フィードバックし合える
職場の実現を目指します



2025年度目標 リハビリテーション技術科



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	全身管理、統合的な評価を包括的に解釈した上でのゴール設定と、リハビリテーションの提供	成果時に評価
2. 活き活きと働ける職場環境	礼儀正しいこと 依頼の適正化や人員配置を変更し働き方を見直す	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	有本Dr.の地域構想のもと地域との連携強化	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	算定や加算の取り漏れと対応範囲を見直し算定点数の向上を目指す	成果時に評価



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度目標値	達成度
算定単位数	16.7	15.8	17	成果時に評価
総合実施計画書算定機会率	64%	68%	80%	成果時に評価
がんリハ算定単位数	7974	7680	8000	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- 部門システム更新に資源を裂く
- 効率的な単位取得ができるように対応する
- PTの人員配置を調整変更
- 総合実施計画書の月またぎ患者さんの算定をおこなう



今年度の新たな取り組み

- 部門システムの更新
- 効率的な単位取得を考える
- 月またぎ患者さんの計画書算定機会率を向上し維持する



決意表明

患者さんのADL、QOL向上に努めることはもちろんですが、
新しい部門システムが大きな問題無く稼働すると共に、
病院経営に貢献するよう努めます。



2025年度目標 臨床工学科



2025年度 数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値
修理対応率	70%	75%	80%
機器委託点検費用(仮想)	600万	650万	670万
透析施行回数	16,850	17,525	17,700
スコープオペレーター介入率	10%	30%	30%
内視鏡 スコープ修理費用の削減	800万	570万	670万
EGD・CS・ESD介助	1,350	1,720	1,800
緊急検査対応	—	—	50
心臓デバイス遠隔モニタリング管理	154	187	200
心・血管カテーテル清潔介助	230	267	300
緊急カテーテル対応	—	20	50
アブレーション治療時3rd介入	9	56	65

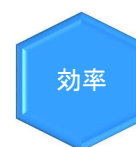


2025年度 重点目標

項目	目標
1. 質の高い医療の実現	タスクシフト・医師等業務負担軽減への実現 > 内視鏡・カテーテル領域での緊急への対応 医療DX・デジタル化への対応 > 医療機器・デバイス患者・内視鏡洗浄システムの一元化管理
2. 生き活きと働ける職場環境	専門性スキルの向上及び支援 > 各種専門、認定の取得(不整脈、内視鏡、周術期)
3. 地域ニーズへの対応	在宅医療への対応 > 指導内容の統一、ライセンス化 災害時透析支援体制の構築 > 行政、透析施設間連携ネットワークの強化 市民向け広報イベントの開催 > 市内施設での機器展示、職業紹介、SNSによる発信
4. 経営基盤の更なる強化	診療報酬の取得 > オンラインHDF患者の増加 > デバイス遠隔モニタリング未送信患者の削減



2025年度 重点目標達成に向けた施策



カテーテル・アブレーション治療での入退室、治療時間の短縮
(昨年度 Total 約60時間の軽減)



高齢者でもわかりやすい指導方法(動画作成)
データのクラウド管理(QRコード化)



デバイス遠隔モニタリング未送信患者対応フローの作成



今年度の新たな取り組み

- ◆バスキュラーアクセスの管理
 - 新たなデバイスを使用したVA管理
 - BV計を用いて再循環率を算出し、穿刺部位の把握や狭窄部位の早期発見
- ◆タスクシフト/医師負担軽減
 - 麻酔補助業務の充実
 - 鏡視下内視鏡保持業務の展開
- ◆内視鏡関連の効果的な機器、器材類の管理
 - 洗浄度チェックの実施
 - 各処置具の滅菌前管理(潤滑剤塗布)
- ◆備品、器材類の適正管理
 - SPD、サブライセーターとの連携
 - 在庫管理



決意表明

原点回帰

～安全、信頼、貢献、協働、進化～



2025年度目標 栄養管理室



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	既往歴にあわせた治療食の選択	成果時に評価
2. 生き活きと働ける職場環境	有給取得の目標10日 キャリアアップに向けた資格取得への推進	成果時に評価
3. 地域ニーズへの対応	栄養情報提供書を通して地域へ情報発信	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	特別治療食の40%維持	成果時に評価



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
特別治療食の割合	34.7%	32.8%	40%	成果時に評価
化学療法室での栄養指導件数	491	660	720	成果時に評価
栄養情報連携料	2024新設	231	360	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

1. 既往歴に応じた特別治療食を選択出来るシステム作りと共に、入院支援での患者面談を行い、入院時からの特別治療食提供を行う。
2. 育児時短取得の推進を行いながらも部署内での有休取得10日を目標とする。



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- 3.当院から転院する患者さんの栄養情報提供書作成を整形外科、脳神経内科に加え呼吸器科、NST介入患者に行う。
- 4.特別治療食の件数増加に向け、予定入院患者への早期介入を行い、治療食の期間を確保する。



今年度の新たな取り組み

栄養情報提供書を通して食物アレルギー情報、食事形態情報など地域の病院との連携を図っていきたい。



決意表明

特別治療食 40%以上を維持

約束食事箋を改定し、厨房運営の安定化も図っていく。

地産地消に取り組み患者さんにとって喜ばれる食事を目指す。



2025年度目標 臨床支援技術科 臨床支援士



今年度の新たな取り組み

- ・骨脆弱性ネットワーク レジストリ登録
- ・産科 NCD登録
- ・眼科 紹介状登録

今年度新たに、上記登録作業を臨床支援士で行うことになりました。

誤りなく登録ができるよう、進めていきます。



2025年度 診療数値目標

項目	2024年度	2025年度 目標値	達成度
診断書修正依頼件数	月平均 15.4件	月10件	成果時に評価
返戻率	1.79%	1.25%	成果時に評価

修正件数を減らすことで、文書受付での業務の削減、診断書の引き渡し期間の短縮に繋がることが考えられます。

診断書作成件数は月によりばらつきがあるが、返戻率1.25%以下を目標に、修正依頼件数を減らしていきたい。



決意表明

他部門と協力し、個々がスキルアップすることで、医師の負担軽減および患者さんの満足度向上を目指します！



2025年度目標 臨床支援技術科 歯科衛生士



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
周術期口腔機能管理Ⅰ・Ⅱ件数	1000件	1000件	1100件	成果時に 評価
周術期口腔機能管理Ⅲ・Ⅳ件数	1700件	2000件	2200件	成果時に 評価
摂食機能療法介入件数	—	700件	800件	成果時に 評価
口腔機能管理	—	300件	300件	成果時に 評価
口腔細菌定量検査1	—	—	100件	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	周術期等口腔機能管理の充実	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける職場環境	人材確保 他の医療機関との人材交流	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	疾病重症化予防を目的とした口腔管理	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	口腔細菌定量検査・咬合圧検査の導入	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- ・周術期口腔機能管理の充実
 - ・診療報酬改定で範囲拡大
- ・人材確保
 - ・静岡県歯科医療従事者バンクの活用
- ・他の医療機関との人材交流
 - ・静岡県病院歯科衛生士連絡協議会への参加
- ・疾病重症化予防を目的とした口腔管理
 - ・集中治療室・感染症患者への対応



今年度の新たな取り組み

新規検査の導入

- ・口腔細菌定量検査
 - ・口腔バイオフィルム除去処置
- ・咬合圧検査
 - ・口腔機能管理



決意表明

診療報酬改定に対応し
歯科衛生士が行う口腔管理で
健康増進に寄与していきます！



2025年度目標 臨床支援技術科 臨床心理士



2025年度の重点目標達成に向けた施策

小児・周産期

- 要支援児童対策連絡会体制の充実化、「気になるシート」運用
- 周産期病棟・小児病棟スタッフ向け心理勉強会の実施

がん・緩和ケア

- 「苦痛のスクリーニング」を活用し、適時に効果的な心理的ケアを提供する。
- グリーフケアに関する研修の継続、リーフレット配布

認知症ケア

- 外来における認知機能検査体制の充実



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	小児・周産期 ・ 安心して出産・分娩・子育てができるよう取り組みの充実化、地域行政等と連携、院内スタッフの教育 ・ 障害種に応じた質の高い心理療法・心理教育の提供	成果時に評価
	がん・緩和ケア ・ 良質で、有効性の高い心理的ケア提供体制の整備 ・ 院内外の医療者がグリーフケアを実施できる環境の整備、教育、啓発	
3. 地域ニーズへの対応	認知症ケア ・ 重症化予防への貢献 → 認知機能検査および評価体制の充実	



今年度の新たな取り組み

小児・周産期

- ✓ 「気になるシート」の活用、気になる家庭の早期発見・早期介入を啓発
- ✓ 死産ケースのカンファレンスや勉強会でグリーフケアに対する心理学的視点を提供

がん・緩和ケア

- ✓ 【苦痛のスクリーニング／気持ちのつらさ】陽性患者と臨床心理士の介入率の把握
- ✓ 【気持ちのつらさの相談希望】患者への介入率50%以上

認知症ケア

- ✓ 外来における認知機能検査マニュアルの作成、検査実施者の増員



【2025年度】決意表明



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2025年度目標 臨床支援技術科 視能訓練士



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
一般検査件数	2118件 (8月～ 集計開始)	3236件	3850件	成果時に 評価
特殊検査件数	1611件 (8月～ 集計開始)	1981件	2580件	成果時に 評価
硝子体注射件数	38件 (12月～ 集計開始)	120件	135件	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	より正確な診断ができるようにする	成果時に 評価
2. 生き活きと働ける職場環境	働き方改革を推進し、希望休暇の取得を確実にする	成果時に 評価
3. 経営基盤の更なる強化	コスト請求を習慣つける	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

1. 質の高い医療の実現

→より正確な診断を行うため、検査項目を増加させる。移動などの身体的負担、コスト負担なくできるよう同一機械で行う。正確に診断する事で、的確な治療に繋がる。

2. 生き活きと働ける職場環境

→希望休を確実に取得できるよう、お休みを早めに把握・共有し、心置きなく休暇取得できる環境を整える。遠慮なく、休暇申請できる環境を整える。

3. コスト請求を確実にする

→検査数が増加すると、検査結果をだすことに精一杯になり、コストチェックが疎かになりがちになる。コストチェックまでが責任ある作業になるよう習慣をつける。



今年度の新たな取り組み

ただいま眼科は診療体制、すべての見直しをしています。

検査方法、診察のやり方、書類や説明文、使用機器や配置、そして名もなき業務も含め、外来運用、手術運用などすべての見直しです。通常業務と並行し、問題抽出、改善を繰り返しているため、今年度だけでは見直し完了にはならないかも知れません。ですが、これから何年先も患者さんが安心安全、そしてスムーズに受診できるよう、近隣病院の先生方から選ばれるよう、時間がかかっても全行程の見直ししていきます。

そのため前回と話が違う、というような事も起こります。御迷惑おかけしますが、患者さんにとってより良くなるための変化と御理解いただけたら、とても嬉しいです。



決意表明

私たち視能訓練士は、志たかき眼科医を支えながら自らも努力し眼科をもり上げ、みなさまの眼を守っていきます！



2025年度目標 地域医療連携室



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
経営基盤の 更なる強化	①紹介患者の受入れ体制を整え、集患につなげる ・女性骨盤機能センターへの新規患者増加 ②医師の同行訪問による連携強化を図り、集患に繋げる ③空床状況等に応じた下り搬送の運用	成果時に評価
地域ニーズへの 対応	①より多くの地域住民に情報発信を行う ②新たに協定締結をした連携機関との協議を行い、 当院の役割を果たす	成果時に評価
活き活きと働ける 職場環境	業務進捗を共有し、計画的に進めることにより 年休取得をしやすい環境をつくる	成果時に評価



2025年度 数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
月平均紹介件数	1031	1070	1100	成果時に評価
月平均逆紹介件数	1332	1330	1300	成果時に評価
関係機関の訪問件数	202	308	300	成果時に評価
医師との訪問件数	40	42	45	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

経営基盤の更なる強化

- ①紹介患者の受入れ体制を整え、集患につなげる
 - ・当院の強みを把握し、地域へ積極的にアピール
 - ・目標発表会の情報を訪問や講座の企画に活用する
- ②医師の同行訪問による連携強化を図り、集患に繋げる
 - ・顔の見える関係の構築、当院への要望の把握
- ③空床状況等に応じた下り搬送の運用
 - ・運用の構築と実走
 - ・当院が必要とする疾患の連携機関の確保

新しい取り組み
のスライドで
詳しく...



2025年度の重点目標達成に向けた施策

地域ニーズへの対応

- ①より多くの地域住民に情報発信を行う
 - ・市民公開講座 今年3回開催
 - ・出前講座
 - ・病院長の地域医療セミナー
- ②新たに協定締結をした連携機関との協議をもち、当院の役割を果たす
 - ・介護施設等との連絡会を開催し、協議を行う
 - ・地域のニーズに合わせた在宅医療連携勉強会の開催



今年度の新たな取り組み

女性骨盤機能センターの紹介患者受入れ体制を整え、集患に繋がる広報を行う

- ・積極的な広報
 - 診療のご案内への掲載、リーフレットの作成や配布
 - ポスターの作成、医療機関以外への広報を検討
- ・市民公開講座の開催
- ・紹介患者をスムーズに受け入れる予約システム
- ・患者さんの症状相談窓口の開設



決意表明

当院の強みを「攻め」の姿勢で、広報をしていきます。
連携先とは、相互理解と協力し合える関係を
発展させるお手伝いをしていきます。



2025年度目標 入退院管理室

2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
入院支援	9診療科	10診療科	15診療科	成果時 に評価
入院時支援加算1		214件	1050件	成果時 に評価
入院時支援加算2	851件	796件	144件	成果時 に評価
施設等への訪問		12施設	25施設	成果時 に評価

2023年は後方支援病院
への訪問実績あり

2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	入院前から退院支援を開始することでシームレスな 入退院支援を提供する 患者・家族の意向に沿った退院支援・退院調整の実施 多職種と協働した支援の充実	成果時 に評価
2. 働き活きと働ける 職場環境	休暇がとりやすく、残業時間削減が可能な体制 作り	成果時 に評価
3. 地域ニーズへの 対応	後方医療機関、在宅ケア関係者との連携強化 顔が見える関係の強化	成果時 に評価
4. 経営基盤の 更なる強化	効果的・効率的な病床管理 入退院支援加算に関わる算定数の増加	成果時 に評価

2025年度の重点目標達成に向けた施策

- * 居宅・医療対応型老人ホーム・包括支援センター
訪問看護ステーションへの訪問強化
- * 外来支援体制の強化
- * 院内外が多職種との連携

今年度の新たな取り組み

* 入院支援センター始動に向けた 業務調整・業務改善の推進

- ・入院前から介入することで、患者・家族の意向を反映した退院支援を推進
- ・多職種の協働推進



決意表明

地域との連携強化！

院内多職種の協働による
入退院支援を実現させます！



2025年度目標 医療・福祉相談室



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
患者相談室連絡会の定期開催と成果報告の実施	—	3施設以上 年2回開催	年2回開催 発表1回	成果時に 評価
入院支援業務拡大への業務協力	—	—	入院支援 に関わる 手引きの 完成	成果時に 評価



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	医療メディエーション活用のための継続教育の実施 地域と協働しての取組み、研修会への参加 患者アンケート回答内容の検討	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける職場環境	公正な年休取得と時間外の短縮	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの対応	地域施設の相談室との連携強化を図り、日々の業務へ反映させる	成果時に 評価
4. 経営基盤の更なる強化	入院支援業務拡大への専門性を活かした業務協力	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

「1. 質の高い医療の実現」

- ・医療メディエーション活用のための継続研修
過去受講者に向けた継続研修の院内開催
- ・地域との協働取組み・研修会
障害児(者)勉強会、虐待研修会の企画・開催
身寄りのない人への支援ワーキングへの参加
- ・患者アンケート回答内容の検討
アンケート結果を基に対応の検討を行う



今年度の新たな取り組み

入院支援業務拡大への専門性を活かした業務協力

MSWの業務

患者やその家族が抱える様々な課題について**相談援助**を行い、安心して治療に専念し、**問題を解決するために調整や援助**を行う。

入院に対する不安

社会
復帰

看護
介護

療養先

経済面

心理面

社会福祉
サービス

これらの情報を捉えMSWが早期に介入出来れば・・・

- ・安心して入院が出来る
- ・適切な退院支援につながる
- ・必要なサービス利用
- ・地域・行政との連携強化
- ・早期に情報をキャッチし対応することで**未収金防止対策**



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

決意表明

医療・福祉相談室の「強み」は、多職種が自身の専門性を発揮して相談にあたるところ。

「チームワーク」を活かし、「丁寧」に、「適切」に対応し、相談者にも職員にも満足していただけるように努めていきます。



磐田市立総合病院
Iwata City Hospital

2025年度目標 病院総務課



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- 危機管理体制の見直し
 - 病院前救護所などの変更点や現状に合わない人員配置・必要物品の見直し、BCP・アクションカードなどマニュアルの修正・更新
- 文書管理ルールの方定
 - 現状の調査・課題の抽出、文書管理のルール策定、維持管理の実行



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療の実現	危機管理体制の見直し	成果時に評価
1. 質の高い医療の実現	文書管理ルールの策定	成果時に評価
1. 質の高い医療の実現	施設整備の計画的な実施	成果時に評価
2. 活き活きと働ける職場環境	年末調整事務の効率化	成果時に評価
4. 経営基盤の更なる強化	コストを抑えた白衣の更新	成果時に評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

- 施設整備の計画的な実施
 - 内視鏡センター関係部署との運用・工程の調整、厨房改修の仕様書作成、施設全体の修繕計画の見直し
- 年末調整事務の効率化
 - 仕様書の作成、業者選定、システム導入、職員周知、運用管理



2025年度の重点目標達成に向けた施策

□ コストを抑えた白衣の更新

→ 周辺病院から情報収集、運用方針の決定、
入札、採寸等、期日内納品のためのスケ
ジュール管理



今年度の新たな取り組み

電子カルテ更新に伴い経営企画課と共同で

1. 内線通話機能、電子カルテ閲覧・チャット機能
を持つスマートフォン250台を導入
2. 外部参照用ノートPC30台を導入
3. 内線番号の見直しも実施



決意表明

職員に**信頼**され、
職員が期待する**成果**が出せる
病院総務課を目指します！



2025年度目標 医事課



マイナ保険証利用拡大による 医療DX推進体制整備加算の確保

令和7年4月～9月

医療DX推進体制整備加算1、2、3…非該当(電子処方箋サービス未導入)

医療DX推進体制整備加算4…(医科)10点(歯科)9点:マイナ利用率45%
医療DX推進体制整備加算5…(医科)9点(歯科)8点:マイナ利用率30%
医療DX推進体制整備加算6…(医科)8点(歯科)6点:マイナ利用率15%

各月のマイナ保険証利用率

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	…
対象月最高値						46%	46%		
当院利用率	26%	46%	43%	44%					
算定対象月						11.12.1月	12.1.2月	1.2.3月	

※昨年度に引き続き啓発活動を継続!



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
新規未収金の削減(千円)	33,669 (1月末)	28,906 (1月末)	23,000 (1月末)	成果時に 評価
マイナ保険証利用率の 更なる拡大(%)	2 (最高値)	46 (最高値)	45 (平均値)	成果時に 評価
再審査請求点数	782,378	1,013,921	1,500,000	成果時に 評価



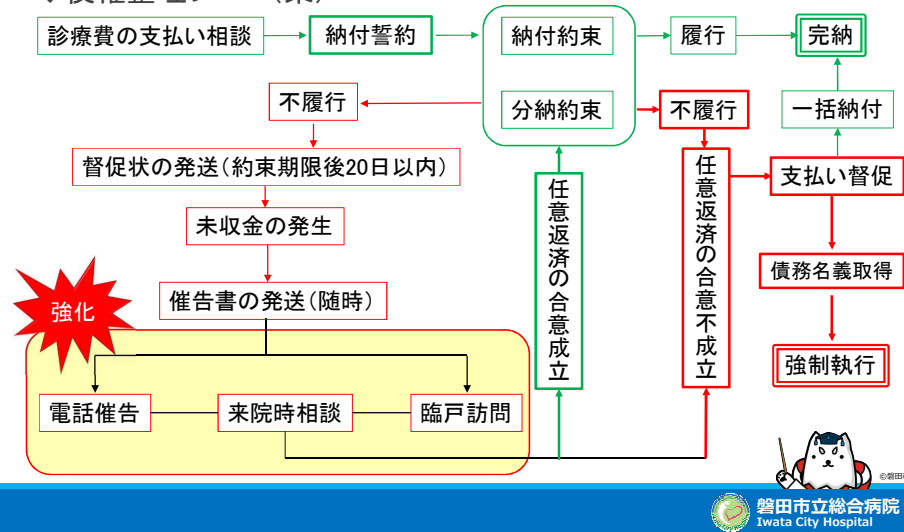
2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
1. 質の高い医療 の実現	内視鏡センターのスムーズな移転	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける 職場環境	年休10日/1人取得しワークライフバランスを整える	成果時に 評価
3. 地域ニーズへの 対応	病院救急車を活用した下り搬送の実施	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	新規未収金の削減(フローに基づいた債権整理) 室料差額と自費診療の見直し 救急外来預かり金の実施	成果時に 評価



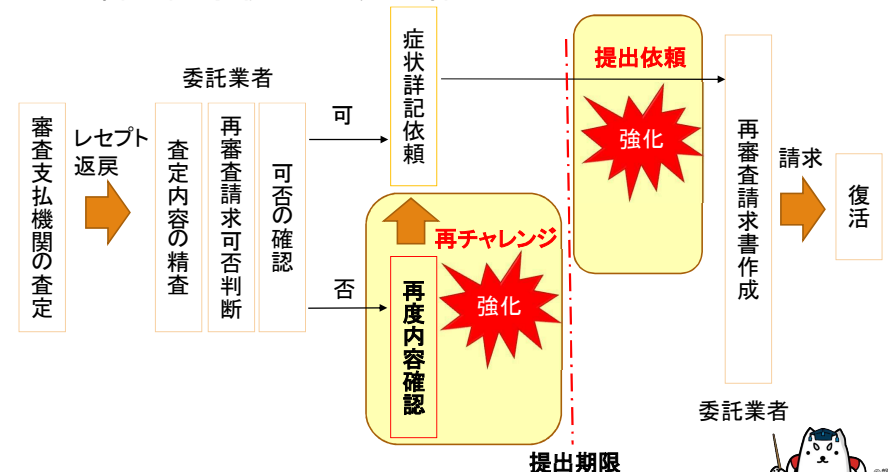
2025年度の重点目標達成に向けた施策

◆債権整理フロー(案)



今年度の新たな取組み

◆再審査請求復活点数の増加



決意表明

医事課業務にも魔法の杖は存在しません。

◆病院のために

- ・地道な活動を継続します！
- ・スピード感を持って取り組みます！
- ・計画的に課題を整理します！

2025年度目標 経営企画課



2025年度 診療数値目標

項目	2023年度	2024年度	2025年度 目標値	達成度
経常収支比率 (経営強化プラン)	92.5%	90.2%	98.3%	成果時に 評価
一新規入院患者数	1,005人	1081人	1,150人	成果時に 評価
一医業収益 (経営強化プラン)	17,444,655 千円	18,315,663 千円	19,664,000 千円	成果時に 評価
一診療材料(汎用品)の 共同購入品採択率	42.6%	54.8%	60.0%	成果時に 評価

経営強化プランの収支計画実行に向けて取り組みます



2025年度 重点目標

項目	目標	達成度
	第4次中期計画(2026-2030)の策定	成果時に 評価
2. 活き活きと働ける 職場環境	医療情報システム更新	成果時に 評価
4. 経営基盤の 更なる強化	収入増加と経費削減への取組の推進	成果時に 評価



2025年度の重点目標達成に向けた施策

■ 第4次中期計画(2026-2030)の策定

国の施策(診療報酬の抑制、新たな地域医療構想のあり方)や社会情勢を反映した運営・経営を行うため、当院の5か年計画である中期計画を更新し、今後の目指す姿や方向性を定めます。

■ 医療情報システムの更新

安全で質の高い医療サービスの提供と職員の負担軽減を両立させるため、導入が円滑に進むよう運用WGの進捗管理を行い最適な医療情報システムを構築します。



2025年度の重点目標達成に向けた施策

■ 収入増加と経費削減への取組の推進

<収入増加>

新入院患者増加、病床稼働率向上のための戦略を実行します。

<費用削減>

医業費用で給与費、材料費の次に大きな割合を占める経費、特に毎年増加傾向にある委託費を抑制するため、現状分析と契約の見直しを行います。
→ 現行委託費の洗い出し、不要な契約打ち切り、仕様見直し



今年度の新たな取組み

■ 第4次中期計画(2026-2030)の策定

- ・病床数適正化検討WGにおいて今後の方向性を決定

■ 経費削減の新たな取組み

- ・在庫管理WGの推進
- ・医療機器共同購入品採用
- ・医療機器中古販売活用



決意表明

経営企画課は、「**縁の下**の力持ち」

として病院経営に貢献したいと考えています。

私たち、経営企画課のお客様は、「**患者さんや地域の関係者に加えて、病院の職員の皆様全員**」です。

「**明るく楽しく、そしてスピーディーに**」

をモットーに、何事にも真摯に対応しますので何でもご相談ください。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

